



子ども俳句 「秋」

子どもは自然の変化を敏感に感じ取ります。秋は、山の木々が紅葉し、きれいな色に変化します。落葉が始まると子どもたちは、その色や形を楽しみます。

「おちばでね じゃんけんぼんが できるんだ」
(パーは紅葉、チョキは銀杏、グーは柿の葉かな?)

「もみじがね ほしのかたちを しているね」
(色だけでなく形も楽しんでます。お空の星？クリスマスツリーの星?)

荒高掲示板

～ 県立荒砥高等学校 ～

生徒会新役員が決まりました。「地域に貢献できる荒砥高校」を目指してがんばります。

生徒会長 東海林 史穂(2年)

副会長 佐竹 伸子(2年)

事務局長 小口 貴幸(2年)

議長 遠藤 帆夏(2年)

副議長 寺島加奈子(2年)

書記 佐藤 晴香(1年)

書記 東海枝 優紀(1年)

会計 齋藤 良美(1年)

会計 関 智衣(1年)

企画委員長 金田 望美(2年)

生活委員長 金田 南美(2年)

保健委員長 黒澤 陽太(2年)

図書委員長 柏谷 なつみ(2年)

広報委員長 鈴木 伴浩(2年)

応援団長 高橋 翔揮(2年)

事務局員 平 珠那(1年)

事務局員 福田 佳奈(1年)



東北芸術工科大学の学生さんから「企画」について学びました。

【生徒会長 東海林 史穂】

今まで以上に地域の皆さんとの関わりを深めるために、ボランティア活動を活発にしていきたいと考えています。いつも皆さんにはお世話になっているので、荒高生みんなでお返しをしたいと思います。もし、荒高生にボランティアや手伝ってほしいことがあります。ありましたら教えてください。

【副会長 佐竹 伸子】

執行部自らが日々の活動に楽しく積極的に取り組み、「原点」を作ることによって、そこから周りも巻き込み、いずれ全体が楽しく生き生きと取り組んでいけるようになればと思います。私一人の力では難しいことですが、メンバーみんなと協力して成し遂げたいと思います。

町報川柳 「泥」

高橋 白兔 選

佳作 泥仕合いしているような偉い人

ハスの花泥の中より花が咲き

ハスの花今年も咲いた泥沼に

使命感救災阻む泥ガレキ

雨上がり猫の泥足つづく居間

泥臭い方言がすき道の駅

泥の手でかぶを洗った母がいた

かゆい鼻着物でこする泥仕事

泥んこが大好きママの悲鳴とぶ

泥まみれ楽しく遊んだ遠い夢

錦鯉泥水の中で光り出す

泥んこになって我が子のたくましさ

泥畔が光る棚田がなつかしい

その昔泥田で取れた米の味

大人には出来ない無邪気な泥遊び

国民の知らない裏の泥仕合

愛の花乱れ咲き散る泥沼化

一寸待てその長靴は泥だらけ

汗と泥にまみれて生きた我が人生

蓮の花復興誓う泥に咲く

泥まみれ気にせず今日もボランティア

泥臭い汗にまみれて農に生き

未来を見汚泥と戦い農に生き

泥んこにふれた笑顔が光ってる

若人の泥が眩しい甲子園

泥沼に咲いた蓮には汚れない

泥田でもりんと咲く花香る花

泥臭い人生だけど夢がある

コマーシャル鵜呑み老婆も泥パック

泥田にも黄金波打つ秋が来る

泥臭い道だが曲がってなどない

次回 「記憶」十二月二十五日まで。「ドラマ」一月二十五日まで。
はがきに三句まで。一句でも二句でも可。
白鷹町荒砥乙四二八―二 高橋 白兔 宛

高玉 片山 時美

ふじみ野 村上 桂造

横須賀 大滝 健次郎

大瀬 五十公野春巳

滝野 海老名さち

荒砥乙 土谷 灯一

武蔵野 池田 武子

畔藤 菅原 敦子

山口 渡部 喜美子

西高玉 金田 コト

十王 守谷 三郎

高玉 高橋 朝子

鮎貝 横沢 直太

横田尻 金田 れん

荒砥甲 鈴木 美貴子

十王 鈴木 しげ

佐野原 五十嵐あきよ

荒砥甲 丸山 正志

佐野原 五十嵐とし

鮎貝 植木 英夫

藤沢市 大西 順三

山口 石川與次衛門

荒砥甲 井澤 美佐子

浅立 梅津 美千子

十王 川部 隆雄

貝生 保科 努

浅立 高橋 とみ

荒砥乙 大滝 栄子

箕和田 土屋 三歩

世田谷 遠藤 八重